



下仁田ジオパークアクションプラン



2022 年度～2026 年度版

1. 下仁田ジオパークが目指す将来像

下仁田ジオパークには、日本列島の生い立ちを解明する上で重要な鍵となる地質現象が集中し、当地域には古くから多くの研究者が地質調査に訪れている。しかし、いまだ地質学的に解明されていない部分も多く、一般の方が理解しやすい解説が十分にできていないことが課題とされている。

こうした課題を解決し、地域の宝である下仁田ジオパークについて地域住民が学び理解し保全活動を行なうと共に、おもてなしの心で住民総ジオガイドを目指し、「**地域の良さの再認識と地域の活性化、地域の繋がりの強化**」を実現していくものとする。また、こうした地域の各活動を通じ、社会全体のよりよい未来を目指していく。

2. 将来像の実現のための取り組み

下仁田ジオパークは、地域住民全体で町民総ジオガイドを目指し「**地域の良さの再認識と地域の活性化、地域の繋がりの強化**」の実現に向け具体的に次のような目標を掲げる。

- (1) 地域住民が下仁田ジオパークの価値を理解
- (2) 地域住民が地域にあるジオサイトを保全
- (3) 地域住民がジオパークを学習する場の創出
- (4) 近隣のジオパークとの連携
- (5) 継続的な活動

3. SDGs 達成に向けた取り組み

SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) とは、2030 (令和 12) 年までに、持続可能な世界を実現するための達成すべき 17 の目標です。下仁田ジオパークでは、SDGs の趣旨に賛同し、本アクションプランの中で地域の各活動と 17 の目標の繋がりを明確にし、ジオパーク活動を通じて社会が抱える問題の課題解決を目指します。

4. 取組み概要

(1) 教育活動	P3
① 学校教育を通じた活動	
② 地域住民向けの学習活動	
③ 広域的な学習活動	
(2) 産業観光活動	P7
丁目	
① ジオ商品の促進	
② 広報の充実	
③ ジオツーリズム（観光）の充実	
(3) ガイド活動	P11
① ガイド組織の体制整備	
② ガイド育成の強化	
(4) 学術活動	P15
① 地域資源の調査研究支援	
② 保全・保護体制の強化	
③ サイトのデータベース化・情報発信の強化	
④ 防災・減災への取り組み	
(5) 全体活動	P21
① 協議会体制の強化	
② 拠点施設の整備	
③ 他のジオパーク、関連自治体との連携	

上記の取組みについて、「現状」「計画内容」「計画詳細」「実施スケジュール（5年間）」「達成目標」「SDGs 到達目標」を定め活動を行なう。また、本プランについては、柔軟に見直しを行なっていくものとする。

(1) 教育活動



①学校教育を通じた活動

現 状

現在、小学校・中学校では、それぞれ地域学習プログラム「下仁田学習」に基づいた地域学習を実施しているが、近年の学習指導要領の改定などに伴い、プログラム通りに進めるのが難しくなっている。また一方で、町教育委員会ではコミュニティスクールの推進が進められており、これらと連携した地域学習の再編が必要とされている。

下仁田高等学校は、群馬県のコミュニティハイスクールに指定されており、地域学習プログラム「下仁田学習」を取り入れて、活発な地域学習に取り組んでいる。特に近年では、課題研究などにも取り組んでいる。

計 画 内 容

現状の学習指導要領に併せた「下仁田学習」に基づく地域学習プログラムを検討し、教育活動を持続的にを行うための教員向け研修を実施する。

計 画 詳 細

ジオパーク学習をさらに充実させるため、教育部会として教育委員会や町内にある各学校と連携を図り以下の取組みを薦める。

- ・教育委員会と連携した地域学習プログラムの検討。
- ・町内小・中学校・高校でのジオパーク学習を継続。
- ・学校教員に向けた研修会の実施。
- ・児童・生徒によるジオパーク学習発表の場の創出。
- ・児童・生徒の他のジオパークとの交流の場の創出。

実施スケジュール

項 目	2021年度 (令和3年度)				2022年度 (令和4年度)				2023年度 (令和5年度)				2024年度 (令和6年度)				2025年度 (令和7年度)				2026年度 (令和8年度)			
教育委員会と連携した地域学習プログラムの検討																								
町内小・中学校・高校でのジオパーク学習を継続																								
学校教員に向けた研修会の実施																								
児童・生徒によるジオパーク学習発表の場の創出																								
児童・生徒の他のジオパークとの交流の場の創出																								

達成目標

- ・2022（令和4）年度までに地域学習プログラムの内容を検討する。
- ・継続的な地域学習を毎年行う。
- ・年に2回教員向けの研修会を実施する。
- ・年に1回以上、児童・生徒による学習成果発表の場を設ける。
- ・2022（令和4）年度までにジオパーク間交流の実績を作り、以降年に一度児童・生徒が、他のジオパークの児童・生徒と交流をする。

SDGs 到達目標

地域子どもたちにジオパークを通じた専門家と接する機会をつくったり、地域学習を通じて地域への理解を深め次世代の担い手を育成することで SDGs 到達目標 4「質の高い教育をみんなに」に繋がる。また、環境学習を通じて SDGs 到達目標 14「海の豊かさを守ろう」、SDGs 到達目標 15「陸の豊かさも守ろう」にも繋がる。

②地域住民向けの学習活動



現状

下仁田ジオパークの会による「ジオの日ミニ講座」「ウォーキング de ジオ」や下仁田町公民館による「下仁田学」など、「下仁田学習」に基づく普及事業の成果もあり、地域住民の間にジオパークが少しずつ浸透し始めてきている。

また、下仁田自然学校では、集落ごとの定期的な集会に参加して交流をはかるとともに、ジオパーク関連の普及活動や地域防災の講演および相談をおこなっている。

計画内容

下仁田ジオパークの各ジオサイトについて、その魅力を観光客や地域住民等に紹介するため出前講座や地域座談会を継続的に開催し、ジオパークの理解を深めるとともに観光客へのガイドや学習機会の誘致等の取り組みを行う。

さらに、自治体職員向けの学習会を開催するなどジオパークへの理解を深め、地域住民と一体となり情報発信と来訪者の「おもてなし」に努める。

計画詳細

ジオパークを地域住民にさらに浸透させるため、教育部会として以下の取り組みを実施する。

- ・地域ごとのサロンなどへ出向いた座談会の実施。
- ・「下仁田学」、「ジオの日ミニ講座」などを通じた地域住民への普及。
- ・ジオパークの今後を考えるためのタウンミーティングの開催。
- ・自治体職員向けの学習会の開催。

実施スケジュール

項目	2021年度 (令和3年度)			2022年度 (令和4年度)			2023年度 (令和5年度)			2024年度 (令和6年度)			2025年度 (令和7年度)			2026年度 (令和8年度)		
地域のサロン等へ出向いた出前講座の実施																		
「下仁田学」、「ジオの日ミニ講座」などを通じた地域住民への普及																		
ジオパークの今後を考えるためのタウンミーティングの開催																		
自治体職員向けの学習会の開催																		

達成目標

- ・年に2か所以上地区サロンでの座談会を実施する。
- ・毎年、普及事業を行う。
- ・4年に一度タウンミーティングを開催し、ジオパークの方向性を確認する。
- ・2年に一度自治体職員向けの学習会を実施する。

SDGs 到達目標

地域住民に地域を理解し、また地域活動に参画してもらうことで、SDGs 到達目標 3「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。また、地域住民にジオパークを通じ、足元の大地の正しい理解を促すことで SDGs 到達目標 11「住み続けられるまちづくりを」に繋がる。

③広域的な学習活動

現 状



下仁田ジオパークには理科の教材になる露頭や、先人たちの自然との共生の工夫を伝える地域資源が豊富にある。これらを活用した教育旅行の誘致を、様々な場で行ってきており、教育団体の受け入れを行うことができていた。しなしながら、新型コロナウイルスまん延後これらの受け入れが困難になっており、事態

収拾後の受け入れ対応についても感染症に配慮した新たな課題が生じている。

計 画 内 容

下仁田ジオパークの魅力を町外に発信し、教育旅行、体験学習、野外学習の受け入れを行う。また、今後の新型コロナウイルスにより現地での見学ができない場合の対応についても検討していく。

計 画 詳 細

ジオパークを広域的に浸透させるため以下の取組みを実施する。

- ・各種教育機関の受け入れの継続。
- ・教育旅行ガイドブックの活用と下仁田ジオパークの教育旅行の PR。
- ・オンラインによる教育旅行受入の検討（教材開発など）。
- ・教育旅行の魅力的なモデルを作り、HPなどで公開。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)				2022 年度 (令和 4 年度)				2023 年度 (令和 5 年度)				2024 年度 (令和 6 年度)				2025 年度 (令和 7 年度)				2026 年度 (令和 8 年度)			
各種教育機関の受け入れの継続																								
教育旅行ガイドブックの活用と下仁田ジオパークの教育旅行の PR																								
オンラインによる教育旅行受入の検討(教材開発など)																								
教育旅行の魅力的なモデルを作り、HPなどで公開																								

達 成 目 標

- ・年に1件以上、新規の教育旅行団体受け入れを行う。
- ・年に1回以上教育旅行の誘致、PRを行う。
- ・2023（令和5）年度までに、オンラインでジオパーク見学受入実績を作る。
- ・2024（令和6）年度までに、教育旅行のモデルプランを作り HP で公開する。

SDGs 到達目標

ジオパークにおける教育活動の普及は、①学校教育を通じた活動でも述べたよう SDGs 到達目標 4「質の高い教育をみんなに」に繋がる。また、教育旅行の中で行われる環境学習を通じて SDGs 到達目標 14「海の豊かさを守ろう」、SDGs 到達目標 15「陸の豊かさも守ろう」にも繋がる。

(2) 産業観光活動



① ジオ商品の促進

現 状

ジオパーク下仁田協議会（以下「協議会」という）では、下仁田産の食材を使ったもの、下仁田の自然歴史を模したものなどを下仁田ジオパークブランド商品（以下「ジオ商品」という）として登録し、販売促進を行っているが、販売促進の利活用があまりなされていないといった課題がある。

計 画 内 容

地域で栽培、生産される地場産品を活用した新たなジオ商品の開発や、既存のジオ商品をブランド化することで、関連商品の付加価値を上げる。

ジオ商品の販路開拓を行い、ジオパークの PR に結びつける。

計 画 詳 細

ジオ商品の促進のため以下の取組みを行なう。

- ・ 農業者、加工業者、販売者等の意見を積極的に取り入れたジオ商品の開発。
- ・ ジオ商品の広報。
- ・ 各地のイベントでジオ商品を販売。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)	2022 年度 (令和 4 年度)	2023 年度 (令和 5 年度)	2024 年度 (令和 6 年度)	2025 年度 (令和 7 年度)	2026 年度 (令和 8 年度)
ジオ商品の開発	■	■	■	■	■	■
ジオ商品の宣伝	■	■	■	■	■	■
他地域エリアでの ジオ商品の販売	■	■	■	■	■	■

達 成 目 標

- ・ 2 年間で 3 商品のジオ商品を増やしていく（特に地場産品）。
- ・ SNS や HP など各種広報媒体を使いながら定期的な宣伝を行う。
- ・ 他地域で物販をする際にジオ商品を活用する。

SDGs 到達目標

地域産品の活性化を図ることで、農作物生産促進に繋がり、次世代農家の継続に繋がることが期待される。これらは SDGs 到達目標 2「飢餓をゼロに」、SDGs 到達目標 8「働きがいも経済成長も」の実現に繋がる。

②広報の充実



現 状

HP のリニューアル、SNS での情報発信、メディアでの広報活動により、認知度が向上すると共に、町外からの問い合わせは増加している。地域住民への浸透度を深めるために、まちなかと馬山地区のエリア毎のガイドブックを作成し、青倉地区のクリップに関するマンガ小冊子を作成した。

しかし、地域住民への浸透度はまだ低く、住民全体にジオパークの認知度を向上させる必要がある。

計 画 内 容

下仁田ジオパークに関する取組みや情報を地域内外に PR し、下仁田ジオパークや当地域の認知度を向上させ、地域の盛り上がりや来訪者の拡大を目指す。

計 画 詳 細

広報活動をさらに促進させ、地域住民及び町外者への認知度を向上させるため、以下の取組みを実施する。

- ・見たい、知りたいと思わせる HP 作成。
- ・判りやすい・見やすいパンフレットを作成。
- ・地域住民向けの判りやすい情報を広報誌・SNS で PR。
- ・地域内イベントへブース出展による PR 活動。
- ・地域外におけるジオパーク PR。
- ・各サイトの案内看板設置・修正計画の検討。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)			2022 年度 (令和 4 年度)			2023 年度 (令和 5 年度)			2024 年度 (令和 6 年度)			2025 年度 (令和 7 年度)			2026 年度 (令和 8 年度)		
HP による情報発信																		
パンフレットの作成																		
広報・SNS を使った PR																		
地域内イベントへのブース出展																		
地域外イベントへのジオパーク PR																		
案内看板設置計画・修正計画																		

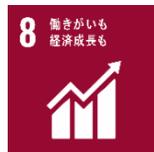
達成目標

- ・定期的に HP での情報発信を行う。
- ・4年に一度パンフレットの見直しを行う。
- ・定期的に広報・SNS での情報発信を行う。
- ・地域内の行事で年に3回以上ジオパークの PR を行う。
- ・年に2回以上地域外のイベントでジオパークの PR（パンフレット・体験ブースの出展）を行う。
- ・ジオパークの案内看板の整備について、必要な箇所の洗い出しを行い、管理団体と協議のうえ、整備計画を策定する。

SDGs 到達目標

地域住民が分かりやすいガイドブックや情報発信を図ることで、SDGs 到達目標 4「質の高い教育をみんなに」に繋がることが期待される。また、世界遺産やジオサイトや文化財などの地域資源を普及することは、地域資源の保全にも繋がり、SDGs 到達目標 11「住み続けられるまちづくりを」の実現にも繋がる。

③ジオツーリズム（観光）の充実



現状

下仁田町は首都圏からのアクセスが良く、自然・歴史など様々なコンテンツがあるため、首都圏在住者の旅行誘致の潜在的需要は高いと思われる。そのため、当地域で体験できるものを HP に表記し、来訪者が体験・ツアーを利用しやすいようにした。

しかし、ジオツアー利用者数は非常に少ない。また、現在行われているジオツアーは、ガイドの話を聞く、景色を見るものが多く、歴史や旅行が好きなシニア層に需要はあるものの、一般層に受け入れやすいものとはいえない。今後、農業体験やアクティビティ（川遊び）などをエリア内で体験できるコンテンツに加え、来訪者のニーズにあった体験プログラムを検討する必要がある。

計画内容

地域内の魅力を広めるため、観光関係機関と連携し広域的なマーケティングを進めインバウンド対策を含めた全体的な戦略策定を行なう。また、学習ツアーとして教育機関に魅力的なツアーをはじめ、個々でも楽しめる体験型のツアー構築も目指す。

計 画 詳 細

ジオツーリズムの拡充を行うために以下の取組みを実施する。

- ・マーケティング調査の結果を見ながら観光施設などでのジオツアーの売込み。
- ・エリア内におけるアクティビティツアーの検討。
- ・エリア内におけるグリーンツーリズムの検討。
- ・協議会・観光業者・農業者と連携したジオツアーの開発や実施。
- ・首都圏向けジオツアー・体験及び教育旅行の売り込み。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)			2022 年度 (令和 4 年度)			2023 年度 (令和 5 年度)			2024 年度 (令和 6 年度)			2025 年度 (令和 7 年度)			2026 年度 (令和 8 年度)		
観光施設などでのジオツアーの売込み																		
新規体験・アクティビティの検討																		
グリーンツーリズムの検討																		
観光事業者との連携																		
首都圏向けツアー売込み																		

達 成 目 標

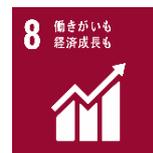
- ・道の駅来場者へのジオツアーPR方法を検討し、ジオツアー利用者を前年比10パーセント増員をめざす。
- ・2023（令和5）年度までに、体験・アクティビティツアー（妙義ツアー・川の生き物観察）の受け入れ態勢を確立する。
- ・2026（令和8）年度までに農業体験（ネギの掘り取りなど）をツーリズムとして位置付ける。
- ・観光事業者と協議会の連携を密にして事業を進める。
- ・2026（令和8）年度までに、観光事業者へのツアー売込み態勢を確立する。

SDGs 到達目標

体験・アクティビティやツーリズムが発展することで、新たな雇用の創出が期待できる。これはSDGs到達目標8「働きがいも経済成長も」に繋がる。また、自然や地域資源を使ったツーリズム及び環境教育は、地域資源の保全、地球環境保全の実現にも繋がり、SDGs到達目標11「住みや続けられるまちづくりを」、SDGs到達目標14「海の豊かさを守ろう」、SDGs到達目標15「陸の豊かさも守ろう」の実現にも繋がる。

(3) ガイド活動

①ガイド組織の体制整備



現 状

ガイドが継続して活動できるよう、2020（令和2）年度にガイド料金を改正した。また、道の駅観光案内所で来訪者にジオパークを楽しんでもうらえるよう、認定ガイドによるガイドの仕組みづくりを行っている。

しかし、ガイドを担える人数は少なく、2021（令和3）年度に改定したガイド認定制度も、より充実した制度にするために再検討が必要とされる。ガイドの成り手がいない状況下でガイド組織の構築についても多くの課題が残っている。

計 画 内 容

ガイドの増員、ガイド認定制度を確立する。

計 画 詳 細

ガイドの組織体制強化のため以下の取組みを実施する。

- ・ガイドの活躍の場の創出。
- ・他地域ガイドとの組織運営に関する意見交換。
- ・ガイド認定制度の検討。
- ・ガイドが独自に学べる環境の整備。
- ・ガイド同士が意見交換をできる場の創出。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)			2022 年度 (令和 4 年度)			2023 年度 (令和 5 年度)			2024 年度 (令和 6 年度)			2025 年度 (令和 7 年度)			2026 年度 (令和 8 年度)		
ガイドの活躍の場の創出																		
他地域ガイドとの組織運営に関する意見交換																		
ガイド認定制度の検討																		
ガイドが独自に学べる環境の整備																		
ガイド同士が意見交換をできる場の創出																		

達成目標

- ・2021（令和3）年度までに新たなガイドの活躍の場（コース）を創出する。
- ・2022・2023（令和4・5）年度に他地域の有料ガイドとの組織運営に関する意見交換を行う。
- ・2021（令和3）年度に制定したガイド認定制度について、制度を充実させるための検討を毎年行う。
- ・2023（令和5）年度までに、ガイドが独自に学べるための『ジオライブラリー』の準備をし、2026（令和6）年度に下仁田町自然史館内にガイド同士が交流できる場を創出する。

『ジオライブラリー』：全国各地から集められた、地学的・地理的な基礎資料を地域住民や来館者が閲覧できる図書室。アーカイブをHPでも公開し、自然史館利用者増加を促す。

SDGs 到達目標

生涯健康で楽しく活躍できるよう、地域の中で活躍の場を創出することで、健康寿命の延長に繋げ、SDGs 到達目標3「すべての人に健康と福祉を」に繋がる。また、有料ガイドの活躍の場が広がるとSDGs 到達目標8「働きがいも経済成長も」に繋がる。

②ガイド育成の強化

現 状

前回計画の「ガイド解説文の統一」は、まちなかコースのガイド内容の解説パネルや解説文の最低限の内容統一を行った。また、認定ガイドと協力し、まちなかコース、馬山コースの解説ガイドブックを作製し、新規ガイド向けの教材としても使える資料を作成した。

また、ガイドのスキルアップについては、専門家や他地域ガイドとの交流を図り、ある程度実現できた。

日本ジオパーク再認定審査（2017）の指摘では、ガイドの解説からダイナミックな地球の営みを感じられないという指摘を受けた。こうした課題について、地球の成り立ちについて学習する機会を設け、少しずつ改善されてきた。

しかしながら、ガイドの解説は、地質、文化の話に偏っており、特に生態系、無形文化についての情報が少ない。



また、目標とした町民総ジオガイドを実現するための地域座談会は一部の限られた地域での開催となり、また下仁田ジオパークの会が行う「ジオの日ミニ講座」も参加者に偏りがあるなどの課題は残る。

計 画 内 容

下仁田全域を案内するガイドと並行して、特定箇所の案内ができるワンスポット案内人を増やす。また、ガイドのスキルアップ研修の開催、他地域ガイドとの交流を実施する。

また、ガイドツアーを利用した人が新しいテーマ・ストーリーを通じて、地球環境や変動する大地に住むことについて考えられるメッセージ性のある案内ができるガイドを育成していく。

計 画 詳 細

ガイドの育成強化のため以下の取組みを実施する。

- ・ワンスポット案内人研修会の実施。
- ・大地の成り立ちや地球環境について語れるガイドのスキルアップ研修の実施。
- ・生態系、無形文化財分野の勉強会の開催。
- ・地域の魅力を知るための地域（サイト）ごとに座談会を実施。
- ・他地域ガイドとの意見交換・交流の実施。
- ・ガイドの研修ビデオの作成。

実施スケジュール

	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)
ワンスポット案内人研修会の実施						
大地の成り立ちや地球環境について語れるガイドのスキルアップ研修の実施						
生態系、無形文化財分野の勉強会の開催。						
地域の魅力を知るための地域（サイト）ごとに座談会を実施						
他地域ガイドとの意見交換・交流の実施						
ガイドの研修ビデオの作成						

達成目標

- ・年に2人以上ワンスポット案内人を増やす。
- ・ガイドの計画したスキルアップ研修会の実施する。
- ・学術部会と協力しながら、2024年度以降年に1回、生態系、無形文化財分野の学習会を実施する。
- ・年に2回以上地域座談会に参加する。
- ・年に1回以上、他地域ガイドとの意見交換を実施する。

SDGs 到達目標

ガイドツアーやジオの日清掃活動などジオパークプログラムに参加した人に、変動する大地や地球環境の変化について考えてもらうことにより、SDGs 到達目標 14「海の豊かさを守ろう」、SDGs 到達目標 15「陸の豊かさも守ろう」に繋がる。

(4) 学術活動

①地域資源の調査研究支援

現 状

当地域の資源の魅力をより深めるため、「ジオパーク学術奨励金制度」を制定し、当地域を研究する研究者を支援する仕組みを作った。

また、奨励金採択者だけでなく、当地域を研究する研究者が利用しやすいように学術文献リストや、法律上の保護エリアで調査をする際の研究者窓口をHP上に掲載した。

しかしながら、一般の人に下仁田を分かりやすく解説するための研究資料の収集はまだ十分とは言い難く、生態系や無形文化財分野については資料の一層の充実が求められる。

計 画 内 容

下仁田ジオパークの地質については、いまだ解明されていない点が数多くあり、今後、研究者の調査により新たな発見も見込まれる。研究者に対する助成を行い、その研究成果のフィードバックにより下仁田ジオパークの学術根拠とする。また、各サイトのジオストーリーを確立させ来訪者にわかりやすく伝える。

計 画 詳 細

調査研究支援のため以下の取組みを実施する。

- ・学術奨励金制度の活用。
- ・学術資料の蓄積を目的とした「下仁田町自然史館研究報告」の年1回刊行。
- ・ガイドや研究者などが連携する仕組みづくりと、ジオストーリーの検討。
- ・調査研究者向けの相談等（宿泊含）の窓口の活用・広報。
- ・地質遺産以外の資源と地質との関わりのある資源の掘り起こしを行う。

実施スケジュール

項 目	2021年度 (令和3年度)			2022年度 (令和4年度)			2023年度 (令和5年度)			2024年度 (令和6年度)			2025年度 (令和7年度)			2026年度 (令和8年度)		
学術奨励金制度の活用																		
下仁田町自然史館研究報告の年間刊行																		
ジオストーリー検討会の実施																		
調査研究者向け窓口の活用・広報																		
地質遺産以外の遺産の価値の掘り起こし																		

達成目標

- ・年に2件以上奨励金を採択し、地域住民向け成果報告会で成果を公表する。
- ・「下仁田町自然史研究報告」を年に1回定期刊行する。
- ・年に1回以上、ストーリーやガイドスキルを検討する場を設ける。
- ・各種学会などに向けて研究者窓口について、定期的な周知を行う。
- ・学術奨励金事業や自然史館研究報告などで地質遺産以外の研究活動についてできるだけ取り上げられるよう努力する。

SDGs 到達目標

②保全・保護体制の強化



現状

当地域には多種多様なサイトがあり、それぞれのサイトにどのような価値があるかをデータベース化し、サイト毎の保全対応を分類した。しかしながら、それらを管理する体制は十分でない。

また、毎月20日を「下仁田ジオパークの日」と制定し、下仁田ジオパークの会によるサイト周辺の清掃活動が行われ、徐々に参加者も増えてきている。しかしながら、エリア全域となると、カバーしきれないサイトがあるのが現状である。

サイトに異変があった場合、国定公園関係者などの関係部署との連携についても課題とされる。また、エリア内で地質・鉱物資源の販売事業が行われており、地質資源を保全し、持続可能なジオパーク活動を周知していくことも課題としてあげられる。

計画内容

研究者や、関係職員と連携し各サイトの地形、地質、植生等の調査を行い地域にあったサイトの保全活動を地域住民と協働で行なう。

庁内各部署と連携を取り、事業等の事前打ち合わせを行いサイトへの影響が出ない事業方法の協議を行なう。

地質資源の販売について、解決方法をともに模索していく。

計 画 詳 細

保全・保護の体制整備のため以下の取組みを実施する。

- ・清掃活動の継続。
- ・地域座談会を開催し、地域資源の価値を理解してもらい、独自の清掃活動を促進。
- ・サイトカルテの更新。
- ・サイトに異常があった場合のサイト管理者との連絡体制の確立。
- ・誰でもできるサイトの見回りシステムの構築（マニュアル作成）。
- ・学術的価値を整理し、サイトの法的整備（天然記念物登録など）の実施。
- ・地質資源・鉱物の販売について、ジオパーク間での意見交換の実施。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)				2022 年度 (令和 4 年度)				2023 年度 (令和 5 年度)				2024 年度 (令和 6 年度)				2025 年度 (令和 7 年度)				2026 年度 (令和 8 年度)			
清掃活動の継続	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
地域座談会の開催・独自清掃活動の促進	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
サイトカルテの更新	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
サイト管理者との連絡体制の確立	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
サイトの見回りシステムの構築	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
サイトの法的整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
地質資源販売についての検討	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

達 成 目 標

- ・サイトの清掃活動を定期的に行う。
- ・年間 2 回以上地域座談会を開催し、地域の資源について理解してもらい、2024（令和 6）年度までに住民主体の清掃活動を実施する地域を 1 つ増やす。
- ・使用頻度に応じて、定期的なサイトのモニタリングを実施し、カルテを更新していく。
- ・2026（令和 8）年度までに、国定公園関係者や国有林関係者に、ジオパークについて理解してもらうための、説明会を行う
- ・2023（令和 5）年度までに誰でもできるモニタリングマニュアルを 10 か所以上作成する。
- ・県と協議しながら、法整備が必要と思われる重要性の高いサイトから天然記念物登録をすすめる。
- ・地質資源・鉱物の販売について、定期的に意見交換を行い、地域にあった理想

的な方法を模索していく。

SDGs 到達目標

清掃活動の継続や拡大は SDGs 到達目標 6「安全な水とトイレを世界中に」、SDGs 到達目標 14「海の豊かさを守ろう」、SDGs 到達目標 15「陸の豊かさも守ろう」の実現に繋がる。

③サイトのデータベース化・情報発信の強化



現 状

当地域のみどころを、各サイトのデータベース（サイトカルテ）として作成した。しかしながら、より詳しく調べたい時に調べるための情報が発信できていないのが現状である。こうした情報が手軽に入手出来れば更なる来訪者が見込まれる。サイト情報の発信は地域学習の更なる展開も予想される。

計 画 内 容

内部資料用に作成したデータベース（サイトカルテ）を公開可能なものだけ精査し、HP へ公開する。さらに、より詳しく学習できるようなページを構築していく。

計 画 詳 細

- ・簡易版アクセスマップの作製。
- ・公開用カルテの作成と HP 公開。
- ・学習向け HP の作成。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)			2022 年度 (令和 4 年度)			2023 年度 (令和 5 年度)			2024 年度 (令和 6 年度)			2025 年度 (令和 7 年度)			2026 年度 (令和 8 年度)		
アクセスマップの作製																		
公開用カルテの作成と公開																		
学習向け HP の作成																		

達成目標

- ・サイト毎のアクセスマップを年に5か所作成する。
- ・公開用カルテを年に5か所作成する。
- ・2024（令和6）年度までに学習向けページを構築する。

SDGs 到達目標

データベースをHPに公開することでSDGs到達目標4「質の高い教育をみんなに」の実現に繋がる。

④防災・減災への取り組み



現状

近年、気候変化による集中豪雨、地震、火山の噴火などの天変地異が多発しており、変動する大地との共生を理解するうえでジオパークの果たす役割はとて大きい。当地域では、ハザードマップが整備されているものの、自然災害が少なく、地域住民の防災意識はやや薄いのが現状である。

計画内容

足元の大地を見直し、エリア内にどんなリスクがあるか把握し、有事の際には住民に関わらず来訪者も対応できるよう、ハザードマップの見方を学習したり、防災に関する意識を高める。

計画詳細

- ・自然災害など、困ったこと等の情報収集を目的とした地域座談会の開催。
- ・過去の災害記録を把握し、町の防災担当と連携したハザードマップを使った防災研修会の開催。
- ・ジオツアー時の危機管理について、他地区ガイドとの意見交換の実施。
- ・緊急時のガイドの行動マニュアルの作成。

実施スケジュール

項目	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)
地域座談会の開催	■	■	■	■	■	■
防災研修会の開催				■		■

(5) 全体活動



①協議会体制の強化

現 状

持続可能なジオパーク運営を行うためにはボトムアップ式の運営方式が必要で、2016年以降、協議会内に専門部会を設置し、専門部会の意見を協議会で承認するボトムアップ式の運営を行ってきた。

またこのほか各団体と連携をとりながら推進を行ってきたが、ジオパーク推進に関わる人々の裾野が広がらない、協議会運営を担う体制が弱いなど課題は残る。

計 画 内 容

協議会や専門部会の活動をより充実させ、各種団体のパートナーシップにより強固な連携をとりながら推進活動を行っていく。

人口減少の進むなかで効率的な運営を目指し、地域団体と連携し、持続可能なジオパーク推進の形を検討する。

計 画 詳 細

協議会体制強化のため以下の活動を実施する。

- ・協議会、専門部会の開催。
- ・各部会の意見交換の場の設置。
- ・各種団体への説明会の実施と連携。
- ・利害関係の一致する団体と連携しパートナー協定の締結。
- ・協議会事務局体制の検討。

実施スケジュール

項 目	2021年度 (令和3年度)			2022年度 (令和4年度)			2023年度 (令和5年度)			2024年度 (令和6年度)			2025年度 (令和7年度)			2026年度 (令和8年度)		
協議会、専門部会の開催																		
各部会の意見交換の場の設置																		
各種団体への説明会の実施と連携																		
パートナーシップの締結																		
事務局体制の検討																		

達成目標

- ・協議会を年に1回、専門部会を年に2回以上行いながら、ジオパーク推進を行う。
- ・年に1回各専門部会の意見交換の場を設ける。
- ・各団体と協議しながら年に1団体以上、協力団体を増やしていく。(パートナーについては、その都度協議する)
- ・同規模程度のジオパーク事務局との意見交換を行い、2026(令和8)年度までに地域にあった事務局運営体制を検討する。

SDGs 到達目標

地域の各団体と連携したまちづくりを行うことでSDGs到達目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の実現に繋がる。

②拠点施設の整備

現状

下仁田町自然史館は、令和3年登録博物館となり、地域資料を収集し、その価値を調査し普及する施設として群馬県に認められた。また、下仁田町歴史館は「世界文化遺産 荒船風穴」をはじめ、下仁田の通史についての展示を行っている。令和3年度は、縄文遺跡の石器石材をテーマにし、自然史館、歴史館と連携した企画展も行った。

しかしながら、下仁田町自然史館の展示は、ジオパークの拠点施設としては、ジオパークのストーリーが分かり易く伝えられていない。

計画内容

新しく策定したジオストーリーが下仁田町自然史館をはじめ、道の駅しもにたや下仁田町歴史館でも来館者に理解できるような工夫を行う。

下仁田町歴史館と連携し、人と大地のストーリーを来訪者に伝えられるように、すすめていく。

計画詳細

拠点施設整備のため以下の活動を実施する。

- ・下仁田町自然史館におけるストーリー展示作成。
- ・下仁田町自然史館の展示内容の検討。
- ・ジオに関連する企画展の立案と開催。
- ・各施設で下仁田ジオパークの情報がえられるような展示の実施。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)			2022 年度 (令和 4 年度)			2023 年度 (令和 5 年度)			2024 年度 (令和 6 年度)			2025 年度 (令和 7 年度)			2026 年度 (令和 8 年度)		
自然史館でのストーリー展示																		
自然史館展示の改善																		
企画展の開催																		
各施設でのジオパーク展示の実施																		

達 成 目 標

- ・2022（令和4）年度までに自然史館でジオストーリーの展示を行う。
- ・年に1箇所ずつ、自然史館の展示を分かり易くする。
- ・年に1度行う自然史館企画展にジオパーク的観点を盛り込む。
- ・道の駅「しもにた」でジオパークに関連した展示を2022（令和4）年度までに行う。

SDGs 到達目標

③他のジオパーク、関連自治体との連携

現 状

ガイドによる交流は頻繁に行われており、各地域のガイド実践だけでなく、活動事例の共有も行っている。また県内の浅間山北麓ジオパークとは展示会の開催やお互いのイベント情報の共有など連携を行ってきた。

ジオパークネットワーク関東ブロック会議にも参加し、関東地域のジオパーク PR にも積極的に関わってきた。

計 画 内 容

日本ジオパークネットワーク（JGN）主催の各種大会や研修会に参加し、他地域のジオパークとの情報交換や連携強化を図り、魅力ある下仁田ジオパークの運営実現を図る。また、県内の浅間山北麓ジオパークのみならず、関連自治体及び群馬県との情報共有や意見交換、ガイド交流等を行い双方のジオパークのスキルアップを行いながら、日本ジオパークネットワークの底上げに貢献する。また、2023（令和5）年度に開催される JGN 全国大会（関東ブロックが主催）開催に向けて関東地域のジオパークの連携強化を図る。

計 画 詳 細

連携強化のため以下の取組みを実施する。

- ・ JGN 主催の各種大会や研修会へ参加。
- ・ 浅間山北麓ジオパークとの連携したジオパークの P R の実施。
- ・ 関東ブロックの連携強化。2023（令和 5）年度は関東ブロック幹事。

実施スケジュール

項 目	2021 年度 (令和 3 年度)			2022 年度 (令和 4 年度)			2023 年度 (令和 5 年度)			2024 年度 (令和 6 年度)			2025 年度 (令和 7 年度)			2026 年度 (令和 8 年度)		
JGN 主催行事 の参加																		
浅間山北麓ジ オパークとの 連携強化																		
関東ブロック の連携強化																		

達 成 目 標

- ・ 年に 1 回以上 JGN 行事に参加し、ジオパーク活動の見聞をひろげる。
- ・ 県内の浅間山北麓と協力した事業を年に 1 回以上行う。
- ・ JGN 関東ブロック会議に年に 1 回以上参加し、連携強化を行う。

SDGs 到達目標